

## 和歌山県内経済情勢報告

(令和5年10月判断)

## 1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を据え置き)

項目	前回(5年7月判断)	今回(5年10月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和5年10月判断は、前回5年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しているほか、雇用情勢は、持ち直しつつあるなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(5年7月判断)	今回(5年10月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、値上げの影響やお盆の帰省需要の影響から飲食料品で増加しているほか、外出機会の増加により衣料品及び身の回り品についても増加している。

コンビニエンスストア販売は、人流の増加やイベント需要により、売上が増加している。

ドラッグストア販売は、外出機会の増加によりメイク関連商品の売上が増加しており、堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、季節商品の売上が好調であったものの、全体の売上は前年を下回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、新車供給台数が増加していることから普通車・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、お盆は台風の影響があったものの、観光客数が増加している。また、円安の影響などもあり、外国人観光客数が増加している。

#### (主なヒアリング結果)

- 来店客数、買い上げ点数は前年を割っているものの、値上げにより販売価格の上昇傾向が続いていることから客単価は前年を超える水準で推移しており、前年同期比で売上が増加している。(百貨店・スーパー)
- 今期は旅行などで外出機会が増加したことやセールを実施したことから、衣料品や身の回り品を中心に売上は増加している。また、8月は帰省需要により来店客数が増加しており、飲食料品を中心に売上が増加している。(百貨店・スーパー)
- 化粧品については、外出機会の増加によりメイク関連商品を中心に売上が増加している。医薬品については、感染症の影響が緩和されてきたことから解熱剤や風邪薬よりも、予防のために漢方薬などを買う人が増えている。(ドラッグストア)
- 季節性商品であるエアコンと扇風機の売れ行きが良かったものの、その他の商品については売上が伸び悩んでいる。(家電大型専門店)
- 今期について、前年同期比でみるとメーカーの生産回復に伴う納車数の増加により売上は増加している。(自動車販売店)
- 7月は5類移行後初めての夏ということもあり、コロナ禍前を超える宿泊人員となった。8月はお盆の台風の影響で思ったほど伸びなかったが、昨年の宿泊人員は超えており、台風がなければコロナ禍前とほぼ同じ宿泊人員となっていたと思われる。(観光関係団体)
- 今期は前期と比べてイベントが多く、ビアガーデンなど宴会需要も増えてきている。(卸売)

#### ■ 生産活動 「持ち直している」

鉱工業生産指数でみると、「機械工業」などは低下しているものの、「鉄鋼業」などは上昇している。

企業からは、自動車生産の回復の影響を受け生産量は増加しているとの声が聞かれており、生産活動は、持ち直している。

#### (主なヒアリング結果)

- 海外需要が減退している状況ではあるが、衣料品の国内生産状況は順調で設備投資需要の増加傾向が続いているほか、受注残への対応もあることから、当社の生産状況は安定している。(生産用機械)
- 取引先において北米向けの在庫が積みあがっていることから生産調整を行っており、当社への発注依頼も減少している。(金属製品)
- 衣料用洗剤は前期に既存製品の改良版の生産が集中したことから反動で生産量は減少しているが、需要は伸びており、他の製品を含めた全体の生産量は横ばい。(化学)
- エネルギー関連製品について、北米向けは在庫過多となっているものの、中東向けは需要が衰えておらず、底堅い需要となっているほか、自動車関連製品について、自動車生産回復の影響がみられるようになってきており、出荷量は増加している。(鉄鋼)
- 半導体部品の供給正常化に伴い自動車生産の回復が続いており、当社への発注量が増加しているため、生産量が増加している。(輸送用機械)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率（5年8月）は、前月と比べて上昇しているほか、新規求人数は、3か月平均でおおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 「建設業」について、公共事業数が少ないほか、受注できたとしても物価高や原材料高の影響により利益が十分に出ていないことから新しく人を雇う余裕がなく、既存の人員で何とか対応している。また、「運輸業、郵便業」について、タクシー業界については観光需要の高まりがあるものの、それに対応できるだけの人員が不足している。（公的機関）
- 特に若手の流動性が高く、離職者が出ている。外国人実習生を受け入れているものの、円安により日本で働く魅力が下がっていることや法規制上できる作業に限られるといった問題がある。（金属製品）
- 今期は生産量が減少しているため従業員の過不足感はないが、年齢構成上、若手社員が少なく、今後の会社の中心となる人材が不足している。賃金について、上げなければ離職につながることや、採用も難しいことから、平均10%以上の賃上げを実施している。（非鉄金属）
- 整備士が慢性的に不足しており、最近では確保することが難しくなっている。学生の応募が減少しているため、今後は外国人労働者の採用も検討している。（自動車販売店）
- 特に運送や建設といった業種で時間外労働の上限規制適用を見据えて、より基本給の高い企業に転職する動きが出ており、規模の小さい企業になるほど賃上げする余力もないことから、人材の流出が深刻となっている。（経済団体）

## ■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年7～9月期調査）でみると、5年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年度を下回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を上回る見込みとなっている。

## ■ 企業収益 「5年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年7～9月期調査）でみると、5年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で黒字転化となっている。

### 【その他の項目】

## ■ 住宅建設 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数（3ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、貸家で前年を上回っているものの、持家、分譲で前年を下回っている。

## ■ 公共事業 「前年を下回る」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、国、県、市町村、独立行政法人等で前年を下回っている。

## ■ 企業倒産 「倒産件数、負債総額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を下回っている。

## ■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和5年7～9月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、中堅企業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、大企業、中小企業で「下降」超となっている。

連絡・問合せ先 和歌山財務事務所 財務課 TEL：073-422-6142